



IPBESシンポジウム

自然共生社会の実現に向けた社会変革

～IPBES地球規模評価を踏まえて次期生物多様性世界目標を考える～

本年5月にフランス・パリで開催された第7回IPBES総会において、「生物多様性と生態系サービスに関する地球規模評価報告書」の政策決定者向け要約が承認されました。本報告書では、自然がもたらすもの※は世界的に劣化し、このままでは生物多様性の保全や持続可能な社会の実現は不可能と指摘しています。一方で、社会変革を促進する緊急かつ協調的な努力が行われることで、自然を保全、再生、持続的に利用しながらも同時に国際的な目標を達成できると指摘しています。

このため、本シンポジウムでは、IPBES地球規模評価報告書の解説、社会変革についての専門家によるパネルディスカッション、自然共生社会の実現についての参加者によるグループディスカッションを通じて、生物多様性に必要な社会変革と一般市民ができることについて考えます。

※「自然がもたらすもの（NCP: Nature's contributions to people）」は、IPBESにおいて生態系サービスとほぼ同義の用語として使用されており、自然がもたらす負の影響も含まれています。



10:00 主催者挨拶

10:05 IPBES地球規模評価共同議長メッセージ

10:15 基調講演「自然の恵みを継承できる社会への変革」

武内 和彦 IGES理事長

10:30 IPBES地球規模評価報告書からのメッセージ

「世界の生物多様性と生態系サービスの現状と将来」

橋本 禪 東京大学大学院農学生命科学研究科准教授

「現場から考えるIPBES：欧州と日本にみる社会変革の萌芽」

香坂 玲 名古屋大学大学院環境学研究科教授

11:15 パネルディスカッション

ファシリテーター

香坂 玲 名古屋大学大学院環境学研究科教授

パネリスト（五十音順）

金子 洋平 花王株式会社 ESG部門 ESG活動推進部長

高村 ゆかり 東京大学未来ビジョン研究センター教授

鳥居 敏男 環境省 自然環境局長

山口 真奈美 日本サステナブル・ラベル協会 代表理事

12:15 休憩

13:15 テーマ別グループディスカッション

テーマ1 「2050年の暮らし：自然共生社会はどんな社会？」

テーマ2 「共生社会の実現へ① 今の私たちの暮らしと社会が抱えている課題」

テーマ3 「共生社会の実現へ② 解決方法－社会変革（transformative change）はどう起こすか」

16:00 閉会挨拶

開催日時

2019年

12月21日(土)

10:00～16:00

会場

東京大学農学部内 東京大学
弥生講堂・一条ホール

(東京都文京区弥生1-1-1)

参加申込

参加料無料、事前申込制となっております。
令和元年12月19日（木）までに、以下の
参加フォームからお申し込みください。

<https://iges.or.jp/jp/events/20191221>



* 登壇者情報は裏面をご参照ください。

講演者プロフィール



金子 洋平

花王株式会社 ESG部門 ESG活動推進部長

1986年花王株式会社入社し、研究開発部門にて界面活性剤などの素材開発に従事
2009年素材開発研究所所長
2014年環境・安全推進本部長を経て現職
専門は、有機合成化学、界面化学、LCA（理学博士）



香坂 玲

名古屋大学大学院 環境学研究科 教授

名古屋大学大学院環境学研究科教授
東京大学農学部卒業。ハンガリーの中東欧地域環境センター勤務後、英国で修士、ドイツ・フライブルグ大学の環境森林学部で博士号取得。生物多様性条約事務局勤務、COP10では支援実行委員会アドバイザーを務める。金沢大学、東北大学大学院環境科学研究科の教授を経て2019年から現職。IPBES アジア・オセアニア地域アセスメント第1章統括執筆責任者（CLA）、第1期作業計画外部評価パネル委員。IPBES政策支援ツールと方法論のカタログの専門家なども務める。



高村 ゆかり

東京大学未来ビジョン研究センター教授

専門は国際法学・環境法学。京都大学法学部卒業。一橋大学大学院法学研究科博士課程単位修得退学。名古屋大学大学院教授、東京大学サステナビリティ学連携研究機構（IR35）教授などを経て現職。国際環境条約に関する法的問題、気候変動とエネルギーに関する法政策などを主な研究テーマとする。日本学術会議会員、中央環境審議会委員、東京都環境審議会会長なども務める。日本のパリ協定長期成長戦略を策定する懇談会委員も務めた。『気候変動政策のダイナミズム』など。



武内 和彦

公益財団法人 地球環境戦略研究機関（IGES）理事長

東京大学理学部卒業。同大農学系研究科修士課程修了。専門は、地域生態学、サステナビリティ学。同大農学生命科学研究科教授、サステナビリティ学連携研究機構長・教授、国連大学上級副学長などを経て、2017年より現職。2019年より東京大学未来ビジョン研究センター特任教授。中央環境審議会会長、日本学術会議副会長（国際活動担当）なども務める。



鳥居 敏男

環境省 自然環境局長

京都大学農学部林学科を卒業後、1984年環境庁（当時）入庁。富士箱根伊豆、上信越高原、瀬戸内海等の国立公園管理事務所で勤務。2009年からは生物多様性地球戦略企画室長として2010年に愛知県名古屋市で開催された生物多様性条約第10回締約国会議の成功に尽力。2011年からは東日本大震災後の東北地方環境事務所長を務め、その後、自然環境局自然環境計画課長、大臣官房会計課長、大臣官房審議官等を経て本年7月から現職。



橋本 禅

東京大学大学院 農学生命科学研究科 准教授

東京大学大学院農学生命科学研究科准教授
専門はランドスケープ・プランニング、生態系サービス評価とシナリオ分析。東京大学大学院農学生命科学研究科で博士号取得。マサチューセッツ工科大学、国立環境研究所、京都大学大学院農学研究科、大学院地球環境学堂（講師、准教授）を経て2015年より現職。IPBES アジア・オセアニア地域アセスメントおよび地球規模アセスメントの代表執筆者を務めたほか、2018年の同組織の学際的専門家パネルに従事。



山口 真奈美

日本サステナブル・ラベル協会 代表理事

地球環境保全と国際認証の研究の傍ら、環境教育やCSRに関する活動に従事。研究所等を経て2003年独立。2006年より認証機関Control Union日本法人立上げ及び代表も務めた。持続可能な責任ある調達や環境社会的配慮、エシカル消費と生物多様性、国際認証等を専門とし、コンサルティングや教育研修の他、日本エシカル推進協議会副会長等兼任。

（五十音順）

（参考）

生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学-政策プラットフォーム (Intergovernmental science-policy Platform on Biodiversity and Ecosystem Services : IPBES)

IPBES は、生物多様性と生態系サービスに関する動向を科学的に評価し、科学と政策のつながりを強化する政府間のプラットフォームとして、2012年4月に設立された政府間組織です。2018年10月1日現在、IPBESには130カ国が参加しており、事務局はドイツのボンに置かれています。科学的評価、能力開発、知見生成、政策立案支援の4つの機能を柱とし、気候変動分野で同様の活動を進めるIPCCの例から、生物多様性版のIPCCと呼ばれることもあります。

IPBESの成果物は世界中の科学者・専門家らによって執筆され、加盟国政府により構成される総会による承認後、公表されます。設立以降、IPBES第1次作業計画に基づき、18の成果物（評価報告書等）の作成作業が進められ、これまでに以下の評価報告書の政策決定者向け要約（SPM）が承認されています。

- ・生物多様性及び生態系サービスのシナリオとモデルの方法論に関する評価報告書（2016年）
- ・花粉媒介者、花粉媒介及び食料生産に関するテーマ別評価報告書（2016年）
- ・生物多様性及び生態系サービスに関する地域・準地域別評価報告書（2018年）
- ・土地劣化と再生に関するテーマ別評価報告書（2018年）
- ・生物多様性及び生態系サービスに関する地球規模評価報告書（2019年）

連絡先

環境省 自然環境局
自然環境計画課 生物多様性戦略推進室

代表	03-3581-3351
直通	03-5521-8275
室長	中澤 圭一
室長補佐	柳谷 牧子
室長補佐	山田 亨



環境省webサイト

<http://www.biodic.go.jp/biodiversity/activity/policy/ipbes/index.html>